

いきいきゼミナール 健康と医療

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

テーマ「肺炎球菌ワクチンについて」 ゲスト 白石内科クリニック 干野 英明 医師



成人の肺炎の25～40%を占め、最も頻度が高いものです。肺炎は2013年

肺炎球菌ワクチンを接種すると、どのような効果があるのですか。

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌と

肺炎球菌によって引き起こされる病

気を予防するためのワクチンです。

肺炎球菌には約90種類の血清型

肺炎球菌によって起こる主な病気には、肺炎、気管支炎などの呼吸器感

染症や副鼻腔炎、中耳炎、髄膜炎

(ずいまくえん)、敗血症などがあり

ます。中でも肺炎球菌による肺炎は、

頻度が高いものです。肺炎は2013年

の統計では日本人の死因の第3位で

あり、特に高齢者では重症化しやす

く、生命を脅かす重篤な疾患です。

肺炎球菌には約90種類の血清型

がありますが、そのうちの23種類に対

して予防効果を持つのが23価莢膜

(きょうまく)多糖体型肺炎球菌ワク

チン(PPV23)です。この23種類で肺

炎球菌感染症の7～8割をカバーでき

るといわれており、現在成人用ワクチンとして広く使用されています。

—高齢者を対象とした肺炎球菌ワクチンの定期接種、ワクチンの副反応について教えてください。

日本では1988年に65歳以上の高齢者を対象にPPV23が認可されましたが、国からの接種費用の補助がな

く、患者負担が大きいことなどから、発生します。ワクチンの効果は5年ほどで下がるとされ、5年後以降に再接種が勧められます。実際に1回しか接種しなかった人に比べると、再接種した人ではその後に高い抗体価が維持されることが分かっています。日本では最近まで、このワクチンの再接種は禁忌とされてきました。それは再接種直後に疼痛などの局所反応が1回目より強く出るためでした。しかし、初回接種から5年以上経過していれば局所反応も1回目と同程度で済むことが分かり、2009年に厚労省はその条件での再接種を可能としました。現在では世界中どの国でも再接種が認められています。

く、患者負担が大きいことなどから、発生します。ワクチンの効果は5年ほどで下がるとされ、5年後以降に再接種が勧められます。実際に1回しか接種しなかった人に比べると、再接種した人ではその後に高い抗体価が維持されることが分かっています。日本では最近まで、このワクチンの再接種は禁忌とされてきました。それは再接種直後に疼痛などの局所反応が1回目より強く出るためでした。しかし、初回接種から5年以上経過していれば局所反応も1回目と同程度で済むことが分かり、2009年に厚労省はその条件での再接種を可能としました。現在では世界中どの国でも再接種が認められています。

病院訪問

白石内科クリニック



▲外観

風邪、気管支炎、肺炎、喘息(ぜんそく)などの呼吸器疾患やアレルギー性鼻炎、花粉症といったアレルギー性疾患の治療を中心に、肺がんのセカンドオピニオン、禁煙外来(保険診療)まで、きめ細かく診療しています。2013年7月1日に移転しました。

住 所 / 札幌市白石区中央1条7丁目10-30
白石中央メディカルビル 一階
電話番号 / 011-868-2711
診察受付 / 月・木曜 9:00～12:30 14:00～19:00、
火・金曜 9:00～12:30 14:00～18:00、
水・土曜 9:00～12:30
休 診 日 / 日曜・祝日 院長 / 干野 英明

企画制作 / 北海道新聞社広告局